

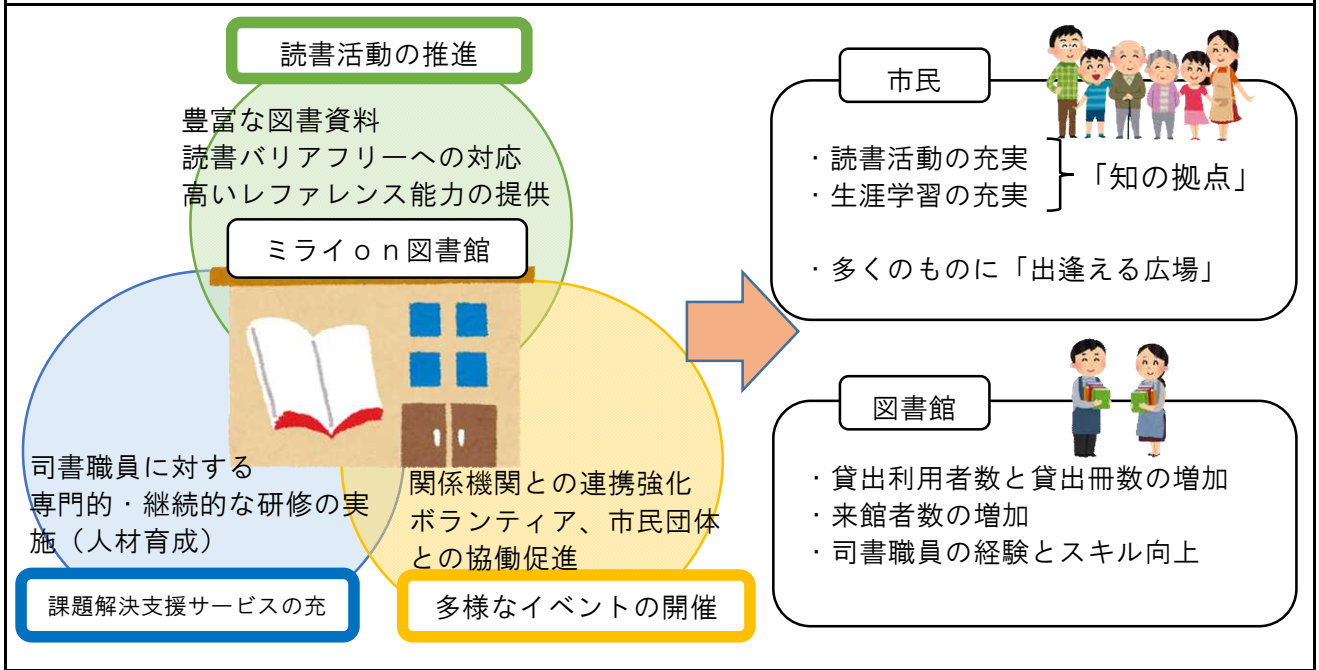
事業概要シート

施策	305	図書館の充実と整備	《》の金額	現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く	
事業名	図書館管理運営事業	現状維持	予算額	74,606 千円 《 74,180 》千円	
事業期間	～		財源内訳	国庫支出金	0 千円
根拠法令要綱等	図書館法、大村市立図書館条例、大村市立図書館条例施行規則			県支出金	0 千円
				地方債	0 千円
				その他	102 千円
			一般財源	74,504 千円	

【事業の目的・概要・対象】

ミライオン図書館の利用者に対する従来の図書館サービスの充実を図りながら、市民の「知の拠点」、「出逢いの広場」となることができるような図書館運営を行います。

- (1) 図書等の閲覧・貸出・サービスの提供
 - ① 閲覧・開架スペースの約25万冊をはじめ、131万冊の蔵書から様々な図書資料等の貸出・閲覧が可能
 - ② 新しい図書館情報システム、ICタグを活用した蔵書管理の実施
 - ③ 自動貸出機の導入により効率的な貸出事務の実施
- (2) 課題解決支援サービスの提供（司書のスキル向上＝レファレンス能力向上）
 これまで以上に市民から必要とされる図書館をめざし、市民の生活や仕事に役立つ情報を積極的に図書館から発信し、提供します。
 - ① ビジネス・産業情報サービス ② 産業支援サービス ③ 医療・健康情報サービス ④ 子育て情報サービス ⑤ 行政情報支援サービス
 情報（図書資料）の提供だけではなく、各分野の専門機関・行政機関と連携し、講座や講演会を計画的に実施します。
- (3) 多目的ホール、研修室等を活用した様々なイベント、講座等の開催
 - ① ボランティアを活用したイベントの定期的な開催
 - ② 多目的ホールを活用したイベントの定期的な開催
 - ③ 研修室を活用した講座等の開催で、幅広い年代の市民へ生涯教育の場を提供



【背景】

令和元年10月5日にグランドオープンしたミライオン図書館は、高知県・高知市について全国で2番目の県立・市立一体型図書館となった。
 JR大村駅の側という立地条件に加え、九州最大規模の図書収蔵能力（約202万冊）、約200台の駐車場、大村市歴史資料館やカフェなども併設され、本市の知の拠点としてのみならず、たくさんの人々の交流拠点として、年間60万人の来館者数を目標としている。

担当課	教育委員会 図書館	課長	堀江 史佳
担当者	朝長 圭子	問合せ先	0957-48-7702

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	R 3 (実績)	R 4 (計画)	R 5 (計画)	R 6 (計画)	R 7 (計画)
①	開館日数	計画値	日	285	290	290	290
②	主催、共催、連携イベント等の開催数 (定例イベントは除く。)	計画値	回	38	50	50	50

【成果指標】

指標名		単位	R 3 (実績)	R 4 (計画)	R 5 (計画)	R 6 (計画)	R 7 (計画)
①	貸出冊数	計画値	冊	947,201	865,200	868,050	870,900
②	ミライオン図書館来館者数	計画値	人	374,294	600,000	600,000	600,000

【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	合計
事業費	66,202	75,725	74,180	74,606	74,606	74,606	439,925
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	26	1	175	102	102	102	508
一般財源	66,176	75,724	74,005	74,504	74,504	74,504	439,417
人件費	41,485	47,635	47,006	47,006	47,006	47,006	277,145
職員(人)	5.40人	6.40人	6.20人	6.20人	6.20人	6.20人	36.60人
時間外勤務(h)	1108h	547h	960h	960h	960h	960h	5495h
会計年度任用職員(人)	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
フルコスト	107,687	123,360	121,186	121,612	121,612	121,612	717,070

妥当性 (市の関与)	市立図書館の運営であり、市が実施主体となることは妥当である。
有効性 (施策貢献度)	良質な図書サービスの提供や様々なイベント開催により多くの来館者が訪れることは、ミライオン図書館の充実を図る取組として有効であり、施策の推進に貢献するものである。
効率性 (コスト)	ミライオン図書館は県立、市立図書館が連携・共同で運営するため、それぞれの役割を明確にしながらも、それぞれが応分の財政的・人的負担を負わねばならない。 今後、開館後の運営状況を把握・分析し、パート職員が担う部分の業務委託化など、改善を検討する余地がある。

1次評価	担当者意見のとおり
2次評価	1次評価のとおり